

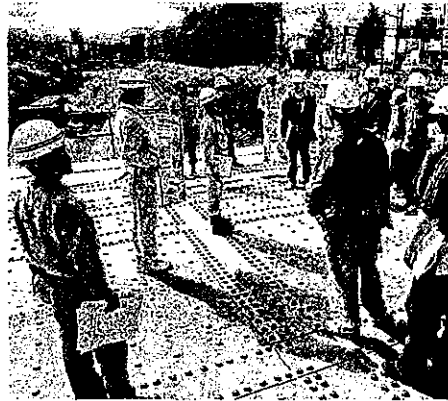
(第三種郵便物認可)

(6)

日本橋梁建設協会道事務所

現場にふれる機会提供

工学部の学生招き現場見学会



事の概要や構造の特徴などを解説し写真。将来の建設業界を担う若者に、いち早く現場にふれる機会を提供した。

日本橋梁建設協会北海道事務所(竹本智所長)は九月三十日、札幌開建が発注した「一般国道12号札幌市東橋上部工事」現場で見学会を開催した。北海学園大学工学部の学生十二人を招待し、すでに床版の設置が終了した橋の上で橋梁工

同協会は、橋梁建設のより良き理解に向けて、幅広い層への広報活動を実施している。北海学園大学の学生を招くのはこととして三回目。同大学当麻庄司教授の引率で、四年生八人、二年生四人が参加した。はじめに、竹村所長はじめ協会員が見学する上での注意点を説明し、「少

しでも橋に興味を持って、将来の進路に役立ててもらえれば」とあいさつした。このあと、札幌開建札幌道路事務所の菊地康第一工事課長らが、事業概要や整備効果などを説明した。

業所長が橋の特徴や架設工法などを解説。温度で伸び縮みするコンクリートの特性を押さえた上で、橋の伸縮装置を紹介するなど丁寧に説明した。

二年連続で参加した四年生は「去年、大学で橋梁工学の講義を受講したが、忘れていたこともかなりあった」と、講義を思い出しながら説明に聞き入った。当麻教授は「早いうちに実際の現場を学生に見せたいが、なかなか機会がない。こうした見学会は大変ありがたい」と感謝の言葉を述べていた。